

行政プロデュース +アーティストネットワークデレクション型美術館の誕生

長野県北部・北信濃に位置する小布施町は晩年の葛飾北斎がはるばる江戸から通い、数々の銘品を残した街として知られ、また街並修景事業や栗菓子を中心とした観光地としても独自の成果を上げ、全国的にもここ数年注目を集めてきました。

その小布施町にある3つの公立のミュージアムのうちの1つで、開館以来12年目を迎える「千曲川ハイウェイミュージアム」が、この4月より“オブセコンテンポラリー◎千曲川ハイウェイミュージアム”としてリニューアルオープンいたしましたので、以下ご案内申し上げます。

また取材、報道など関係各位皆様のお立場にて、ご支援よろしくお願ひいたします。

【行政プロデュース+

アーティストネットワークデレクション型美術館の誕生】

ミュージアムの経営的基盤は引き続き町が担い、コンテンツの実質的な企画・立案は作家のネットワーク（美術家・建築家・編集者・企業家らによる実行母体＝オブセコンテンポラリー実行委員会）が担当する仕組みを新たに構築し、“行政”＝“作家”＝“地域”を有機的に巻き込みながら、運営方法も含め、アートをテーマにした地域再生、文化創造の1つの実験的試みとしてスタートいたします。

作家が一個人として社会と結びついていける仕組みは、まだまだ成熟した環境にあるとは言えません。

作品を目の前にして「なぜ、その人はそれをつくったのか」、そして「わたしたちはそこから何を受け取るのか」。

単に作家の作品を展示・鑑賞するという場の機能を超えて、彼らの果てしない創造力と希望を孕んだその仕事と、現実社会を結び接点を探り、具体的なその装置（プラグイン）の構築を作家自らが発想し試行していく。そしてその実現を行政がサポートします。

以下現状の取り組みや予定などをいくつかご紹介いたします。

◎アーティストネットワーク

オブセコンテンポラリーは、作り手側（アーティスト）による作家選抜・出品参加依頼・企画コーディネートを行うという、キュレーター不在のプロジェクト構築を基本としておりますが、コーディネーター毎にネットワークも異なり、企画内容の傾向の偏りを避ける為、都度企画提案の審議を行い、責任コーディネーターを移行させ、多岐にわたる展開となるよう工夫していきます。アーティスト自身が企画に関わることで、自らの制作の社会性を拡大させ、戦略的な表現の仕掛け（仕組み）を苦悩することで、より創造的な環境が構築され、アーティストネットワーク自体が社会性を伴って成熟することを目的としています。

◎アーティストインフォメーション（“INFOBUSE” /インフォブッセ）

参加作家作品販売をショップブースで行いながら、ウェブサイト及び常設映像室インフォメーション投影映像にて、企画出品参加作家の最新情報（最新作・展覧会情報）の追加・告知を更新。オブセコンテンポラリーアーカイブデータに都度追記し、データバンクとして充実させつつ作家の動向を進行形で情報公開することにより、詳細で豊穣に蓄積される機能的なデータベースとして、作家・観客・各関係機関相互に渡って効果的にご利用いただきたいと思ひます。同時に参加作家の個別インタビューをプロジェクトコンテンツとして制作し、順次これも上記システムにて公開していきます。



オブセコンテンポラリー プレスリリース

◎ViVa (美場) おぶせ/アートセミナー

もっと美術を学びたい、知りたい、理解したい…いい作品を作りたい。テーマも到達点も人それぞれでOKです。

企画展参加作家とオブセコンテンポラリー実行委員が講師をつとめ、アーティスト自らが現在抱えているテーマや課題を元に講座を構成します。

現役の作家との感性と技術の交歓を通して、よりアートの楽しさを地域の方々と分かち合っていく場として広く公開していきます。

*現状は不定期開催ですが、将来的には半期(6ヶ月/12回程度)ごとのカリキュラムを固定化していきます。

◎企業へのアプローチ

これまでだったようなスポンサーサポートではなく、企業と作家の互恵関係の各種提案を、参加作家に都度依頼し、あるいは提案して貰い、作家と企業とのコラボレーション形態構想のプレゼンテーションの場として、実験的且つ流動的に、企業へのアプローチを行っていきます。

*第1回企業プレゼンは5/10に行われました。

◎教育現場との提携

アートセミナーへの小・中・高校生の参加はもちろん、地域教育現場との連携を模索します。

義務教育の芸術系カリキュラムの時間割当が削減されているなか、美術館と学校、作家と・教師との連携を通して、より若い世代との創造的相互交流を図ります。

*本年度は近隣中学校選択美術「五感でアート」(タイトル仮)講座の企画展示を計画中。

◎イベントプログラム

美術展企画プロジェクトと平行して、芸術文化の総合的発信のベースキャンプとしての役割も担い、可能な限り各種イベント(演劇・コンサート・パフォーマンス等)も開催していきます。

2007年5月 オブセコンテンポラリー実行委員 代表
中村仁(美術家)



「オブセコンテポラリー企画 vol.1 : 版画の魅力」

木版・銅版画・シルクスクリーン・リトグラフ等

オブセコンテポラリー・千曲川ハイウェイミュージアム企画vol.1として、今回はそれぞれの技法で版画制作に取り組む個性的な5人の作家の作品を紹介いたします。

紙やキャンバスに直接描くのとちがいに、版をつくり、写し取るという技法は年賀状などで誰でも一度は体験したことのある身近なアート表現です。しかし一見同じ技法であっても、作家ごとにそれぞれ工夫が施され、奥深い表現方法のひとつになっています。アーティストが心の内に想い、描いた風景が 転写という行為を通してどのように映し出されるのかを是非この機会にお楽しみください。

参加作家

江波戸 列 Kiyoshi EBATO
おらい えみこ Emiko Orai
下田 嘉子 Yoshiko SHIMODA
番留 京子 Kyoko VENDOME
綿引 明浩 Akihiro WATABIKI

千曲川ハイウェイミュージアム第一企画展示室 (2F)
2007年5月11日(金)～6月12日(火)
開館時間/9:00-18:00(会期中無休)
入館料:大人¥300 高校生¥150 中学生以下無料

お問い合わせ先

●オブセコンテポラリーオフィシャルサイト
<http://obusecontemporary.com>

●オブセコンテポラリー全般へのお問い合わせ

千曲川ハイウェイミュージアム
〒381-0200
長野県上高井郡小布施町大字大島上信越高速道路ハイウェイオアシス内
担当:中村 仁(オブセコンテポラリー実行委員会 代表)
TEL:026-247-6600
FAX:026-247-6611
E-mail:info@obusecontemporary.com

●オフィシャルサイト全般へのお問い合わせ

E-mail:system@obusecontemporary.com



映像室でのインフォメーション投影(制作:R-40)

